



ほつ ちよう みち  
八丁道



## DATA・BOARD 13



- ① 富山県高岡市八丁道
- ② 延長870m, 幅員19m
- ③ 石灯籠114基, 植栽, 消雪施設, ストリートファニチャーなど
- ④ 天然御影石, 舗石タイル, 鋳物など

八丁道は、高岡開町の祖である加賀二代目藩主前田利長の菩提寺である瑞龍寺とその墓所を東西に結ぶ約八七〇メートルの参道を、歴史と文化性を尊重しながら、美しい景観を保った快適な都市空間をつくりだすことを目的に整備を行ったものである。

参道は、往時は道沿いに石灯籠や老松が連なる森厳なものであったといわれる。整備にあたっては、そのイメージを大切にし、道路中央部の歩行者通行帯を御影石張りにし、沿道には新田のデザインを施した一四基の石灯籠を配置するとともに、消雪施設、古典的植栽を施している。また、地元の伝統産業を生かした鋳物製のストリートファニチャーの設置などを行い、郷土の歴史に潤いと安らぎが感じられる道となっている。